

まちがど アールバム



8月31日(金)、パレットとつとりの2階が新しく生まれ変わりました。その名も「プチパレット」。以前はフリースペースだった空間を活用し、中心市街地にさらなるにぎわいを生み出そうと、新しく4店舗がオープンしました。この日はマグロの解体実演即売会が行われ、たくさんの人たちがパレットとつとりに訪れました。初めてマグロの解体を目にする人も多く、職人の包丁が一刀入るとじっと様子を見守りましました。きれいな赤身が姿を見せると、会場が待ちに待ったといわんばかりににぎやかになり、訪れた人たちは、新鮮なマグロの身の締まり具合や味を確かめながら、マグロを買って行きました。

パレットとつとりに新店舗が仲間入り

栄町



9月2日(日)、河原町北村でジャンボかぼちゃ育成コンテストが行われました。北村・ふれあい農園の遊休地を利用して、6月ごろからおよそ3カ月の間、北村集落のみなさんが育てたジャンボかぼちゃを、自治会別と特別出品の2部門で、いかに大きく育てることが出来たかを重さで競いました。大きく育ったかぼちゃは、大人の男性でも抱えるのに一苦労。自治会別部門では42誌、特別出品部門では65誌もの重さのジャンボかぼちゃがそれぞれ1位に輝き、「来年も大きなジャンボかぼちゃを作るぞ!」と意気込んでいました。

ジャンボに育ちました!

河原町北村



緊急時ほど慎重さを大切に

宮長

9月10日(月)、全市一斉に総合防災訓練が行われました。この日は、地域住民、関係機関合わせて約4100人が参加。訓練所となった美保南小学校では、地域の人たちによる消火訓練や消防隊による放水訓練など、さまざまな訓練が行われました。6年生は、火災時の煙を再現したスモークマシンを体験。実際に入ってみると、想像以上に視界が悪く驚いた様子。「何とか前の人が見えるくらい」、「障害物にぶつかった。本当だったらけがをしていた」などと感想を述べ、もしもの時に備え、気持ちを引き締めていました。



力走！西部地域で交流駅伝

気高町陸運

8月26日（日）逢坂地区公民館を発着点として、第8回鳥取市西部地域交流駅伝大会が行われました。大会には、地区対抗の部7チーム、各種団体の部20チーム、中学生の部2チームの計29チームが参加。選手の最高年齢者で「しかの鷲走会わかぞうチーム」の宮本芳昭さんが選手宣誓を行い、6区間合計15・8kmを走り切りました。それぞれの選手は、猛暑日の続く中駅伝のために体調を整え、練習を重ね、自己への挑戦を行いました。そして、全選手、全チームが最後までタスキをつないで走り切ることができました。



いざという時に備えて

富安2丁目

9月8日（土）、さわやか会館で避難所運営ゲーム、通称HUGが行われました。これは、災害時に設置される避難所にやってくる、様々な事情を抱えた人にどう対応するかを学ぶために行われたもので、34人が参加しました。「妊婦や病気を抱えた人はどこにいてもらえばいいのかわ」「仮設トイレや炊き出し実施場所はどこにするか」などと、次々と変化する状況に対応するため、参加者同士が真剣に議論。次第に白熱し、立ち上がって取り組む人もありました。「いい勉強になった」と、みなさんが学びのある充実した時間を過ごしました。



季節の便りを絵手紙で

河原町曳田

8月29日（水）、河原地区公民館で絵手紙体験教室が開催されました。この日は、日本絵手紙協会公認講師として活躍中の木本博明さんから、筆の使い方や直線・曲線の書き方などを一通り教わった後、さっそくかほちややさつまいもなど好きな題材を選んで絵手紙作りに挑戦。「何をどう書いても自由ですよ」とのアドバイスに、参加したみなさんは思いのまま、ダイナミックに筆を進めていました。色鮮やかで世界にたった1つの絵手紙が完成し「これからも書いてみたい」と喜んでいました。



手づくりの携帯アプリに挑戦

湖山町南2丁目

9月8日（土）、鳥取大学でスマートフォンアプリを作成する催しが行われました。プログラミングに関心のある高校生や、全く経験のない年配者など10数名が参加し、工学部の学生の手ほどきを受けながら、自分だけのアプリ作りに挑戦しました。一見難しそうなプログラミングも、パズル感覚で作成できる専用ソフトを使用し、作成したプログラムが思い通りに動くたび、会場からは大きな歓声が上がっていました。年配の男性参加者は、「これを機会に、スマートフォンを購入しようと思います」と話していました。